

# NO! リニア

No. 160

2022年11月15日

JR東海労働組合

JR東海労HP  
にアクセス↓



## 大井川水問題パンフは問題だ! ⑩

# 汚染水処理・維持に多額のコスト! 汚染土の管理は無理だ!

パンフの質問5「豪雨等により、発生土置き場が崩れませんか?」のもう一つの回答は「発生土置き場から流れる雨水等の排水は適切に処理をして、大井川へ放流します」です。

1点目は、通常土の水質管理ですが、排水設備を通った水は沈砂池を経由して大井川に放流されるとしています。残土置場は、長さ1km、高さ70m規模です。排水設備の規模も、それだけ大きくなります。排水処理にトラブルがあれば、土砂崩壊は免れません。また、そもそも処分地は軟弱地盤の上、隆起と崩落を繰り返しており、危険性が大です。仮に大規模な土砂崩壊がないとしても、部分的な崩壊は日常的に発生することを考慮しなければなりません。つまり、常に排水設備などのメンテナンスを行い、しかも永遠的に行わなければなりません。会社は、永年にわたってメンテナンスを行うとは明らかにしていませんし、仮に行ったとしても、それだけの予算があるのかとなれば、疑問です。

2点目は、対策土（遮水型）の水質管理ですが、遮水シートを二重に囲み、重金属等が流れないようにする、としています。そして、降雨等により対策土を流れた水は、集水設備に集め水質を調査し、放流するとしています。簡単に、汚染水を処理するように書かれていますが、台風や集中豪雨があれば集水設備の処理能力をはるかに上回る危険性が大です。

また、遮水シートの寿命がどれだけのものなのかは分かりませんが、寿命が来ればシートを取り替えなければなりません。どうやって大量の土砂の下のシートを取り替えるのでしょうか?会社がそこまで責任を持つかどうかは疑問です。

更に、東海環状自動車道のトンネル残土から重金属など有害物質が発見され、降雨でヒ素、フッ素、ホウ素などが流出していますが、国交省は水処理施設のランニングコストに年間4,000万円かかるため、希釈放水したいと言い出しています(リニア訴訟第25回口頭弁論)。果たして会社に水処理費用を負担できる能力があるのでしょうか?希釈放水となれば、大井川流域の飲料水は毒入り水になる恐れがあります。

結局、悪いこと、危険なことはたくさんあっても、良いことなど一つもありません。自治体の合意なしに、勝手に「ここに残土を置かしてもらおう」とぶち上げる会社の態度は傲慢そのものです。それでいて「地域住民との合意を得る」などと、よく言えたものです。